

流行ニュース：

<中国における SARS と科学的臨床的知見、2003 年 4 月 14 日>

2003 年 4 月 11 日に新しく 109 名の SARS 患者が報告され、中国の SARS 患者は 1428 症例、死者は 64 名に達した。新たに報告された中で最も多いのは山西省で 47 症例である。初めて、内モンゴル自治区で 10 症例、福建省で 3 症例の SARS 患者が報告された。WHO 調査チームは、最初に SARS 症例が発生した広東省の医療システムは流行にうまく対応したが、他の省においては SARS に対し迅速かつ効率的に行うための医療システムが欠けているとしている。

北京当局は数箇所の病院で伝播を阻止したように見えるが、WHO の専門家が多数のうわさの中心である軍人病院へ立ち入ることは許可されていない。北京の WHO 職員は、うわさに対して公式に対応していることと厳密な追跡調査がなされていないことに懸念を示している。

*科学的知見：

カナダの科学者が SARS ウイルス遺伝子配列を明らかにしたことにより、診断法の改良とワクチン研究の進展が促進されるであろう。この急速な遺伝子配列の解明は、3 月中旬に設立した WHO ネットワークによる研究室間の協力の結果である。アメリカの疾病管理予防センターが改良した、PCR による SARS の検出法は感度が以前のものの 10 倍であり、WHO はこの検出法がすぐに役立つことを期待している。

*臨床的知見：

WHO は SARS に感染した人の 96% が自然治癒しているも、死亡率が 4% であることに注目している。種々の国における SARS 患者の管理実績及び治療効果のデータ収集に力を注いでいる。

*症例と発生国の最新情報：

2003 年 4 月 15 日までに、22 ヶ国から 3,235 症例、死者 154 名が WHO に報告された。インドネシア、フィリピン、スウェーデンから各 1 症例ずつの可能性例の報告があった。日本は過去に 4 症例の可能性例を報告したが、その後、WHO のリストから除外された。しかし、2003 年 4 月 15 日に新たな 1 症例が報告された。1,418 症例と死亡例 64 名の中国は被害が最も大きい地域である。次いで香港特別行政区であり、1232 症例と死亡例 56 名である。最新の疫学情報は：<http://www.who.int/csr/don/en/>

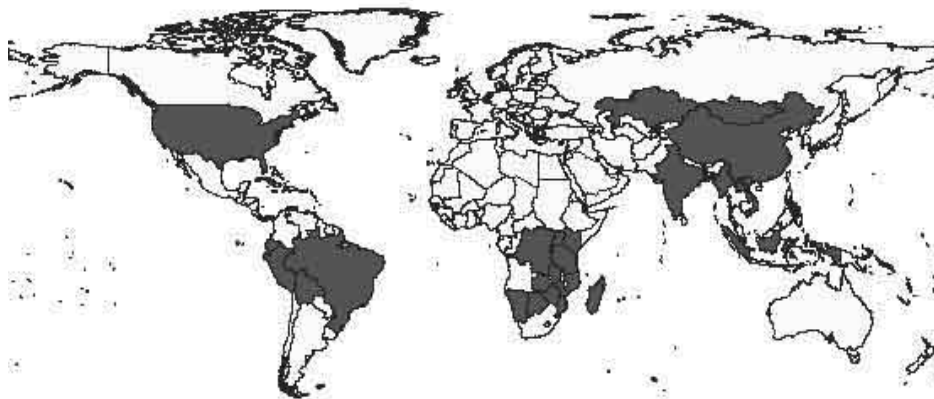
今週の話題：

<ペスト、2000・2001 年>

WHO に報告されたペストの感染例と死亡例は、2000 年が 11 カ国で 2,513 名と 232 名、2001 年が 12 カ国で 2,671 名と 175 名であった。過去 10 年間 (1990-1999) で感染例は 28,207 名で死亡例は 1,978 名であった。このうち感染例の 80.3%、死亡例の 83.9% がアフリカから報告されている。2000 年と 2001 年の、致命率は 9.2% と 6.6% であり、過去 10 年 (1990-1999) の平均は 7.0% であった。

表 1 (WER 参照) に 1987 年から 2001 年のペストの国別発生数と分布を示した。15 年間で 24 ヶ国から 36,876 症例 (うち死者 2,847 例) が報告された。ペストが最も多く報告された年は 1991 年で、最も少ない年は 1980 年代の末であった。アフリカ大陸のマダガスカルとタンザニア、アメリカ大陸のペルーとアメリカ合衆国、アジア大陸の中国とモンゴルとベトナムの 7 カ国はほぼ毎年ペストの発生を報告している。1990 年代初頭以来ペストの罹患率の増加が特にアフリカで観察された。この主な理由は自然界におけるペストの活動増加と加盟国から WHO への報告が改善されたためであると思われる。

地図 1：世界のペスト、1987 - 2001 年



***アフリカ大陸**：感染例と死亡例は2000年が5ヶ国で2,431名と227名、全感染例の96.7%、全死亡例の97.8%であった。同様に2001年は6ヶ国で2,557名と165名、95.7%と94.3%であった。

コンゴ：感染例と死亡例は2000年に371名と63名、2001年に509名と52名、致死率は17.0%と10.2%であった。

マダガスカル：感染例と死亡例は2000年に1,333名（疑い例1,002名）と113名、2001年に804名（疑い例617名）と66名であった。96%が腺ペストであり、肺ペストは2000年で2.4%、2001年で1.7%であった。致死率は2000年8.5%、2001年8.2%。15年間（1987-2001）感染は毎年起こり、計11,673名の感染例と950名の死亡例があった（アフリカの39.6%と39.5%に相当）。

モザンビーク：感染例は2000年に451名、2001年に73名であった。

ウガンダ：感染例と死亡例は2000年に202名と50名、2001年に319名と42名であった。

タンザニア：感染例と死亡例は2000年に74名と1名、2001年に2名と2名であった。15年間毎年報告されており、計6,233名が感染し、402名が死亡した（アフリカの21.2%と16.7%に相当する）。

ザンビア：感染例と死亡例は2001年に850名と3名であった。

***アメリカ大陸**：感染例は2000年が3ヶ国で25名、2001年が2ヶ国で12名であり、全感染例の1.0%と0.4%であった。死亡例はなかった。

ブラジル：2000年に2名の腺ペスト感染例が報告され、両名とも回復した。

ペルー：腺ペスト感染例は2000年に17名、2001年に10名であった。15年間で感染はほぼ毎年報告され、計1,419名の感染例と73名の死亡例があった（アメリカ大陸の80.0%、70.2%に相当）。

アメリカ合衆国：感染例は2000年に6名、2001年に2名であった。過去15年間に毎年散発的にペストの発生が報告されている。15年間で計125名の感染例と12名の死亡例が報告された（致死率9.6%）。

***アジア**：2000年の感染例と死亡例は3ヶ国、57名と5名で、全感染例の2.3%、全死亡例の2.2%であった。同様に2001年は4ヶ国で102名と10名、3.8%と5.7%であった。

中国：感染例と死亡例は2000年に25名と2名、2001年に79名と7名であった。過去15年間で毎年感染例が報告され、それぞれ計451名と57名であった（アジアの8.0%と17.0%に相当する）。

カザフスタン：感染例は2001年に2名であった。

モンゴル：感染例と死亡例は2000年に10名と3名、2001年に8名と2名であった。野生動物の狩猟期と同時に起こっている。1989-2001年に感染例はほとんど毎年報告され、計99名の感染例と、33名の死亡例が報告された（致死率33.3%）。主なリスク集団はマーモット猟師、牛の飼育者、主婦である。

ベトナム：感染例は2000年に22名、2001年に13名であった。15年間毎年報告されており、計3,417名の感染例と187名の死亡例を報告している（アジアの60.4%、56.5%に相当）。

表1：ペスト、世界の報告症例数（及び死亡数）1987-2001年（WER参照）

流行ニュースの続報：

<インフルエンザ>

アルバニア（2003年3月29日）：インフルエンザの活動レベルは3月の最初の3週間でベースラインを超え、3月の最終週には流行閾値を越えた。2例がインフルエンザA型と確認された。

カナダ（2003年3月29日）¹：1月中旬以来、インフルエンザ流行は局所的であった。長期介護施設において29件のインフルエンザの集団発生が報告された。2,746株の分離株のうち1,679株がA型、1,067株がB型であった。

フィンランド（2003年3月29日）²：軍隊で散発的なインフルエンザの発生が過去2ヶ月に報告された。駐屯地で、本年第7週にB型、第10週にA（H1N1）型の集団発生が報告された。

香港（2003年3月29日）³：中等度のインフルエンザ活動が3月にA（H3N2）型優位に起こった。第9週からインフルエンザH5N1型は確認されていない。

オランダ（2003年3月29日）：インフルエンザ罹患率は第8-13週において通常の罹患率を僅かに超えている。105株のインフルエンザウイルスの分離が国立インフルエンザセンターに報告された。3月66名からA/H7型ウイルスが検出され、61名は結膜炎に罹患し、6名がインフルエンザ様の症状を伴っていた。ニワトリにおける感染はいまだに増えつづけているにもかかわらず、人における結膜炎やA/H7N7型の感染数は減少している。

ノルウェー（2003年3月29日）³：インフルエンザ様の疾患の活動は最近7週で起こっているが、集団発生には至っていない。検出された140株のインフルエンザウイルスのうち80株はA型で40株はB型である。A（H1）型とA（H3）型ウイルスのN遺伝子はN2と確認された。

参照：¹No.4,2003,p.24 ²No.7,2003,p.48 ³No.10,2003,p.71

（小野玲、置村康彦、小西英二）